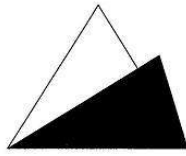


労山

おかやま



Okayama Workers'
Alpine Federation

2022年8月号 第492号

8月1日

発行 岡山県勤労者山岳連盟

HP <http://okayamakenren.web.fc2.com/>

編集：岡山県連盟機関紙委員会
(谷川治 吉房一子 蓮岡昇)



朝3時出発で月がきれいです



雄山を目指します



槍・穂高連峰、白山そして富士山も見えました



立山(KHC ハイキングスクール修了山行、2022年7月22～24日)

1P 表紙、目次

2-3P 全国遭難対策担当者会議報告

4P 全国自然保護講座報告

5P クリーンハイク実施報告

6P 県連救助隊総会報告

7P 安全登山講習報告

8P 全国連盟主催行事案内

9P 中地協ハイキング交流集会案内

10P KHC 第11期ハイキングスクール
報告 KHC 桑田和哲

11P 理事会報告(第1回)

12P 行事予定・事故報告

全国遭難対策担当者会議に出席して

県連理事長 加治郷子(クラブ MONTATA)

2022年7月2日(土)～3日(日) エスポールみやぎ(宮城県仙台市)にて開催された、全国遭難対策担当者会議に出席してきました。

初めての仙台、初めての東北新幹線。午後からの会議ですので、岡山始発の新幹線でも間に合いますが、前日東京に1泊してからの移動。コロナ禍、東京に来たのは2019年の11月以来でしたので、それだけでかなり緊張しています。

東北新幹線には上野駅から乗りました。15年前、朝日連峰に登った帰りに乗った山形新幹線でもわくわくしましたが、ホームから発着する色とりどりの列車や、秋田新幹線「こまち」と、山形新幹線「はやぶさ」が連結された車両に興奮。上野から仙台までは1時間25分で、あっという間に到着しました。そして、仙台駅から会場までは施設の送迎バスで移動です。



会議は、北は北海道から南は沖縄まで23地方連盟から47名(スタッフ含む)が参加、岡山県連からは、加治(県連理事長、クラブ MONTATA 所属)、藤原利夫(県連救助隊事務局長、ピーク・フレンズ・クラブ所属)の2名が出席しました。

初日は、赤間弘記宮城県連会長、岡良一宮城県連理事長、川嶋高志全国連盟理事長の挨拶から始まり、石川昌全国連盟遭対部長からの基調報告では、2020年から2021年の山岳事故の統計からみた、コロナ禍における山岳遭難事故の傾向についての説明が行なわれました。県連総会で川嶋理事長からも報告がありましたが、事故の形態では第一位は道迷い、次が転滑落、その次が病気です。年代別では60代、70代の高齢者が多く、40代以上の中高年が事故の8割を占めています。事故が起きた時間帯から検証すると100%が下山時で、転倒し手をついて骨折する事故が多いようです。中高年登山者の下山時の事故をどうやって防ぐかが、事故を減らす仮題とも言えそうです。



続いて行なわれた柳川憲一氏(医師・全国遭対部員)の講義「山とコロナとがん検診」では、労山会員拡大のために、会員数を増やしたくてもなかなか増えないなら、会員数を減らさない。

そのためには①山での事故を減らす遭難対策、そして、②病気にならない! なくてもすぐ見つける! そのためにもがん検診を受けて早期発見に心がけよう、といった内容でした。

また、熱中症についての講義もあり、予測、予防、早期発見、早期対応が大切、症状によって

重症度を見分けること、そしてそれぞれの症状で早期対応が大事ということを学びました。

休憩の後は、宮崎県連、佐賀県連、兵庫県連、宮城県連で起きた事故の報告があり、その後、全体的な質疑・応答・討論が有り、初日の会議は終了。夕食時には交流会も行なわれました。

2日目は、大和田英子国際部長の「UIAA ハンドブックの使い方から遭難対策」の話から始まりました。大和田氏は大学で教鞭も執られているという経験もあってか、話がわかりやすく、説得力があります。「社会的なステレオタイプ（固定観念や思い込み）が知らない間に身についた思考になってしまっている。知っていてもなかなか回避できない思考や、バイアス（偏り・先入観）とアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）が、事故を引き起こす要因になりかねない。意識すればなおせる可能性があるので気をつけよう。そのためには、山行計画の重要性、山行管理の在り方が問われる。リスクを最小化しながらルートを選び計画を立てる。山行後の反省、山行報告書の提出も大事。リーダーとして、講師として必要なことは、評価・反省・確認をすること。」といったような内容でした。

最後に、質疑・討論・その他の報告、出席者全員からひとことずつ県連の状況等の報告がありました。特に印象的だったのは、福岡県連からの「過去の重大事故を振り返る日として、清掃活動をしている」といった報告でした。過去の過ちを忘れようとするのではなく、次へのステップとして教訓にしていくことはとても大切なことです。

石川昌遭難対策部長による討論のまとめ、そして、臼井邦徳労山山岳事故対策基金委員長から閉会挨拶があり、二日間の会議を終了しました。

午後からはオプションで、宮城県連が岩場の環境整備事業に取り組んでいる鎌倉山（ゴリラ岩）＝仙台市青葉区作並＝の視察が行われたので、仙台在住の MONTATA 会員 K 君と参加しました。午前中から 30℃を越える暑さの中、宮城県連赤間会長がルートの紹介をしてくれました。仙台市はこの時期サクランボ狩りのシーズンで、山形方面に移動する車が多く、市内の道は帰宅の車でかなり渋滞するとのこと。帰りの最終列車に遅れないよう、下部を少しだけ触って岩の感触を味わってから、先に下山しました。

仙台駅までは K 君に車で送ってもらい、予定していた時間より 1 時間早く仙台駅に着くことができましたが、仙台駅も混雑していて、みどりの窓口には人の列ができています。

30 分並んで、やっと岡山までの指定席特急券を手に入れることが出来ました。せっかくの初仙台、美味しいものでも食べて帰ろうと思いましたが、駅ビルはどこも人が一杯。並んでいる余裕も無いので牛タンは諦め、お土産と駅弁を買ってから新幹線に乗りました。

最後に、この全国遭難対策担当者会議は 2014 年に参加して以来 2 度目でしたが、今回の参加は、会場が東北の地ということもあってか、ゆったりと、それでいてしっかりと内容のあるとても有意義な二日間を過ごせました。この経験を県連の今後の活動に活かしていきたいと思えます。



第 25 回全国自然保護講座 in 滋賀

自然保護委員会 西岡 悠樹

7/9(土)、10(日)の二日間で、全国連盟主催の自然保護講座が「美浜・新庄ウインドファーム発電事業と環境への影響」と題して、比良山岳センター(滋賀県)にて開催されました。座学として、NGO「日本自然保護協会」の若松講師より、風力発電事業と環境アセス法(環境影響評価法)の関係及び建設反対運動について講義いただき、実地視察として、「美浜・新庄地区(福井県)」の風力発電建設予定地とブナ天然林の視察を行いました。

一日目：比良山岳センターでの座学「美浜・新庄ウインドファーム事業から考える環境アセス」

一般に「クリーンエネルギー」の筆頭ともとらえられている風力発電だが、発電には発電機の建設が欠かせず、日本では陸上で風が強いエリア＝尾根筋に建設される傾向があり、自然度が高い(人の手が入っていない天然林など)エリアが含まれていることも多くある。しかし、建設計画を一般人が知る機会は少なく、計画エリアの自然度・天然林の保護などはほとんど考慮も公表もされていないのが現状。建設計画にあたり、これら環境への影響は「環境アセス」を通じて考慮・対策されることになっているが、カーボンニュートラル 2050 を推進したい行政の意向もあり、「環境アセス」対象となる発電規模が大きく緩和されてしまっている。よって、今後は自然保護・環境保護の視点が入っていない建設計画が増える懸念がある。

当然ながら「クリーンエネルギー」は地球環境には「良」であり、推進していくべきものだが、発電所建設では地域自然の破壊を伴うケースもある。その地域の自然環境を適切に評価し、自然度が高い地域については計画を見直していくことも必要であろう。

具体的な発電所計画(一定規模以上)では「環境アセス」に準じ、「配慮書」「方法書」「評価書」などが公表されていくが、「配慮書」の段階でないと計画を大きく見直すことは難しい。この段階で自治体の反対・地域住民の反対によって中止となった計画もある。

山岳団体には、各地の自然環境がどうなっているか、希少な生態系がどう分布しているか、という情報を積極的に収集・公表することを期待したい。これらの情報が建設計画立案・見直しの一助となるだろう。

他に徳島・長野・静岡・千葉の各県連についての報告がありました。貴重なお話、ありがとうございました。



切り開かれたブナ林と風力調査用の鉄塔

二日目は、福井県美浜地区に移動し、ブナ天然林での風力発電建設地の視察を行った。直径 3m クラスの巨木も散見されるエリアだが、建設計画はかなり進行しており計画見直しは無いだろうとのこと。付近には原発関連の送電線も多数あり、風力発電所建設には有利な立地のよう。地元自治体も建設には賛成。

座学での若松講師の言葉にもあるように、我々山岳団体は「自然の価値」を発見・公表していくことで、地元自治体に地域自然を再評価してもらい、このような役割が適していると認識しました。地元自治体の地域自然への認識が変われば、自然をなるべく残す方向への計画見直しや計画地変更、といった可能性も出てくると期待できます。

最後に、会場手配から運営までスムーズに実施頂いた滋賀県連の皆様、全国自然保護委員会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

2022 年度クリーンハイク

自然保護委員会 西岡 悠樹

昨年・一昨年と新型コロナウイルス感染拡大を受け十分に実施できなかったクリーンハイクですが、今年度は感染対策を十分に取りながら計 9 会によって実施頂きました(7/13 時点)。まだ実施できていない会もあると思います。直近では新型コロナ感染の第 7 波に突入したとのニュースもありますので、自身の状況に応じて実施可否を判断いただきたいと思います。

実施頂いた会においては、広く岡山県内の地域を選定いただき、延べ 185 名で可燃ごみ 28kg、不燃ごみ 23kg を回収することができました。参加者の皆様、ありがとうございました。

ある会からは「マスク」ゴミが目立った、との報告がありました。三年前にコロナ禍が始まってからは、屋内レジャーや観光地レジャーに感染リスクの注目が集まったため、人混みを避け郊外のキャンプ場が活況とのニュースも目にしています。クリーンハイクで「マスク」ゴミが目立ったことにも、同様の背景があるのではないのでしょうか。私の周りでも、「近くの山に初めて登って見たけど、思いの外気持ちよかった。」という声を聞いたことがあります。これまで山に入らなかった方々が登山に興味を持ち、積極的に山の良さを体感されていることは、我々山岳家にとっても嬉しいことと思います。このような方々に「クリーンハイク」の姿を見てもらえれば、単に山を楽しむだけでなく、楽しむための山を守る意識も伝わるのではないのでしょうか。



また、我々が山域に到着してからまず歩くことになる「林道」周辺から多くのゴミが回収されています。誰も見ていないから、という理由で車からポイ捨てされたものと思います。世界の中で日本は「キレイ」な国だと認識されています。観光に訪れる方々が目にする場所だけでなく、目に留まらない場所でもポイ捨てしない、「心もキレイ」な国を目指したいものです。

労山での「全国一斉クリーンハイク」には、ゴミを回収しキレイな山を保つこと以外にも様々な意義があると思います。我々自身が地元の山に目を向け「良さ」を再確認すること。ゴミ回収の姿を一般の方々に見てもらってキレイな山を保つという考えを持ってもらうこと。来年もこの時期に全国一斉クリーンハイクが計画されることと思います。参加される方々一人ひとり、意義を見つけたクリーンハイクにして頂きたいと思います。

クリーンハイクはノルマではなく自主ボランティアです。皆さんの、山を楽しみたい、という気持ちを大事にして次年度以降も活動に参画いただけたら幸いです。

第26回（2022年度）県連救助隊総会 開催報告

県連救助隊事務局 藤原利夫

2022年度の第26回岡山県勤労者山岳連盟救助隊総会が6月18日（土）にライフパーク倉敷市民学習センターにて開催されました。出席者は委任状7名を含む19名（隊員22名）で、前年度の活動報告と本年度の活動について下記の内容で話し合いが行われました。

【議事次第】

1. 開会挨拶 安河内 修（県連救助隊隊長）
2. 議長・書記の選任（事務局） 議長（村上副隊長） / 書記（藤原事務局長）
3. 2021年度県連救助隊 活動報告
4. 2022年度県連救助隊 活動計画（案）
5. 県連救助隊 役員改選（任命）
6. 入隊隊員の認証、除隊隊員の認証
7. 議長・書記の解任（事務局）
8. 閉会挨拶（加治副隊長）

【2021年度 県連救助隊活動報告】

2021年度6月の救助隊総会（書面総会）において、コロナ禍収束のめどがつかない為、県連救助隊の年間行事は前年度に引き続き2年連続で活動を中止しました。県連内での事故については、緊急事態宣言、まん延防止措置に伴い影響のためか大きな事故もなく救助隊出動もありませんでした。

【2022年度 県連救助隊活動計画（案）】

2022年度の活動計画について、今後の方向性を含めて救助隊隊員全員に各自の意見を発言してもらいました。隊員の年齢も高齢化が進み、新規隊員の入隊も減ってきています。その為、救助・搬出よりも捜索・発見。遭難現場で実際に役に立つことは何か？など多くの意見が出て、今年度の活動計画案が決定しました。

期日 11月27日 内容 ファーストエイド講習及び一般縦走路搬出訓練（セルフレスキュー）

担当山岳会 KHC 一般会員参加OK 場所 操山里山センター
ココヘリ講習会については、検討していく

第27回（2023年度）救助隊定期総会は、県連総会前に実施した方が次年度の計画を立てやすく、救助隊も各委員会と同じ扱いになっている為、県連予算を獲得するためにも年度内開催が良いとのことで、3月18日（土）に開催が決定しました。

【2022年度 県連救助隊役員】（前年度と変更なし）

遭難救助隊長 安河内（みまさか）・副隊長 岡本（みまさか）・加治（MONTATA）・村上（NHC） 事務局長 藤原（PFC）・事務局 三宅（PFC）

山岳遭難での死亡行方不明者は毎年300名前後で推移していますが、近年地図アプリの活用やココヘリでの発見救助もあり、行方不明者の数は減少しています。ココヘリの捜索は警察・消防と常に連携して行われ、さらにドローン捜索チームも全国で拡大、早期発見の為に体制を強化しています。労山もココヘリを推進していますので、ココヘリを携帯し安全に登山をお願いします。

2022 年度 県連安全登山講習①

国際山岳ガイド 近藤邦彦氏による「山の装備と安全登山」報告

日 時 2022 年 7 月 9 日 (土) 13:30~16:30

場 所 岡山県生涯学習センター 視聴覚室

講 師 国際山岳ガイド 近藤邦彦氏

参加者 37 名……岡労 3、みまさか 2、THD 1、KHC 17、SCMC 12、NHC 1、MONTATA 1

国際山岳ガイド近藤邦彦氏の講習会后、思う

2022 年 7 月 9 日 (土)

倉敷ハイキング倶楽部 武野 重則

近藤先生は、「事故、遭難の第一の原因は、」と、問答をするのは、間違いだと強調された。事故の前から小さなミスが少しずつ積み重なって起きている。それを皆で、検証し対策を立てていく事で、次から事故を無くしていくことが大切。まずは、小さな事故も隠さず公表していかななくては、改善は出来ない。そう強く思った。

装備の登山靴については、自分の足裏にフィットしたインソールを用意すると効果的である。また、ソールは使わなくても経年劣化する。登山中にソールが剥がれた時の為に針金か結束バンドを常備する。細いものがよく、ソールの溝にはめるようにして使う。上部は、靴紐に引っ掛けるようにするとズレない。



下着は、秋から春の山には、ウール素材 50%以上 (70%~100%) の物が良い。速乾性のものや発熱素材の下着は急激に体温を奪い、低体温症に成りやすい。雨の時は体温が奪われるため、綿素材でもよいので手袋をはめるのがいい。緊急避難用にはツェルトより封筒型エマージェンシーシートが風に煽られにくく保温に役に立つ。などと、質疑応答で、盛り上がっていました。



対策や装備については、文章にするのは好ましくない。人それぞれのレベルが違うし、それぞれの山やその日の天候でも違いが出る。時代が進むと装備の機能も進歩する。経験豊富な近藤先生の開講一番のお言葉でした。

私事、40 年ほど前に冬の大山で雪道を縦走中に吹雪が酷くなり、2m先が見えない。真っ白、行けどもユートピア小屋が見当たらない。もしかしたらすぐそばに建っているかも。まいった。見えない。その時、相棒が、「しゃがもう」と、しゃがみ込み、落ち着いて考え「引き返しても今なら充分明るうちにふもとに降りられる。」と。足跡たどって無事帰る。

以後、正月休みなどのアルプスでは、ちょっと吹雪くとテントから出ない事になっている(笑)。

沈着冷静な相棒が、20 年ほど前、息子と大山縦走中につまずいて谷へ落ちた。運良く途中の岩に引っ掛かり腰と足の骨折で重傷。連絡後、救助隊やヘリが来て、病院に搬送された。それから奥さんが、大変。警察から呼び出しを受け、見知らぬ鳥取へ車で。警察署では、「ご主人は、登山禁止の所を通っていたんですよ。」など、小言をもらい「民間の救助隊を頼んだので請求書を送りますから支払いをお願いします。」との事。ご苦労様です。

人は、歳を取るとチョットのふらつきも直ぐに元に戻らないとの事。

その通りだ。私も肝に銘じて、『また 山に 登る』。

～全国連盟からのお知らせ～

第 23 回全国ハイキング交流集会「広げよう仲間の経験を！増やそう仲間を！」

1.) 開催日：10月1日（土）～2日（日）

2.) 開催場所：山口県セミナーパーク 山口市秋穂二島 1062 番地

3.) 主催：日本勤労者山岳連盟（担当 ハイキング委員会）

4.) 主管：山口県勤労者山岳連盟 開催規模 70 名～80 名（宿泊 40 名）

5.) 参加費：4,000 円（1泊2食・日帰り参加者は 1,000 円）※県連より補助有り

6.) 開催内容：

1 日（土）午後 12 時半受付 13 時開会

・記念講演「IT時代の山岳遭難」～スマホを活用した安全登山(仮題)～ 登山ガイド 木元 康晴氏

・交流分科会

①会・クラブ運営と会員拡大

（役員の確保やリーダー養成、ハイキングセミナー、例会運営など）

②山行活動について（パーティ編成・バスハイク・コロナ対策・トレーニングなど）

③安全登山のために（持病対策・ココヘリ・スマホの活用など）

2 日（日）交流ハイキングへ……………陶ヶ岳 300m 3～4 コースに分れて、2～4 時間

7.) 申込みについての詳細は、各会の県連理事にご確認下さい。

%%%

第 18 回全国登山研究集会の開催について（案）

テーマ 新しい生活様式に対応した登山文化と労山運動を継承し発展させよう！

期 日 2022 年 10 月 29 日（土）～30 日（日）

会 場 ホテルコンチネンタル(東京都府中市) 参加対象 労山会員および全国の登山者

主 催 日本勤労者山岳連盟 主 管 全国登山研究集会実行委員会

参加費用 一泊二食での参加 8,000円 宿 泊 ホテルコンチネンタル

内 容 初日 10 月 29 日（土）

・基調報告「今、山に登るとき」（仮題）

・記念講演「山と人と街 プロジェクト」（仮題）

—伊藤新道の復活、三俣山荘図書室、山小屋の未来—

講師：伊藤圭氏（三俣山荘支配人、労山創立者 故伊藤正一氏の長男）

・分科会

1 「山小屋の諸問題」 予約制度の功罪、避難小屋の管理、水場とトイレ問題

2 「登山道と遭難対策」 登山道は誰が管理し維持していくべきか？グレーディング

3 「岩場のマナーとアクセス問題」 岩場の所有者と利用者、管理と整備、駐車場と地元の理解

4 「魅惑のトレイル、その楽しみ方」 国内と海外の代表的なトレイルについての紹介

・交流会

2 日目 30 日（日）オプション

・高尾山での読図体験

①スマートフォン・アプリ（ヤママップ・ヤマレコ）の使い方

②国土地理院（2 万 5 千分の 1）地形図の使い方

・室内ジムでの注意点 PUNPⅡでのクライミング体験

※参加申込み 9 月より受け付け開始。詳細は各会の県連理事にご確認下さい。

ご案内 2022 中国地方協議会 ハイキング交流集会 in 三瓶

中国地方協議会の会員の交流を深めるために、島根県連主管で計画されていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020年から2年にわたり延期されていましたが、この度、2022年の秋に大山隠岐国立公園の三瓶山で開催されます。

初日の受付前に見学（希望者）する「三瓶山小豆原埋没林」は約4千年前の噴出物によって埋もれた森林が、ほぼ縄文時代当時の姿のままで保存されており、国の天然記念物に指定されています。2日目に登山予定の三瓶山は島根県のほぼ中央に位置する山で、直径約5kmのカルデラの中に、男三瓶山(1,126m)をはじめ女三瓶山(957m)、子三瓶山(961m)、孫三瓶山(907m)などの溶岩ドームが室の内と呼ばれる凹地をとりまくように連なっている独立峰です。興味のある方は是非参加して、中国地方各県連の会員達との交流を深めて下さい。詳細は下記のとおりです。なお、詳しくは各会理事に確認下さい。

1.) 主催 日本勤労者山岳連盟中国地方協議会（主管：島根県勤労者山岳連盟）

2.) 期日 10月22日（土）～23日（日）

3.) 会場 国立三瓶青少年交流の家（大田市山口町 1638-12） ☎ 0854-86-0319

4.) 日程概要

10/22（土） 13:00 三瓶小豆原埋没林公園集合・・・施設見学は希望者のみ
 14:00 施設見学（ガイド付き）【希望者のみ・入場料 300 円】
 14:30 受付（三瓶青少年交流の家）
 15:00 開会式・日程説明等
 15:30～17:00 講演「三瓶山の成り立ちと自然（仮題）」
 講師：島根県立三瓶自然館 研究員 遠藤大介氏
 18:00～19:00 夕食 19:00～20:30 交流会

10/23（日） 8:30～14:00 三瓶山登山（①～③のコース）・下山後流れ解散

@三瓶山ハイキングモデルコース

- ① 北の原起点 2座縦走コース（4時間） 北の原～男三瓶～女三瓶～北の原
～男三瓶から女三瓶へ尾根筋を進む見晴らしが良いルート～
- ② 西の原起点 男三瓶山往復コース（3時間30分）
西の原～扇谷～男三瓶～正面登山道～西の原
- ③ 東の原起点 室ノ内・女三瓶コース（3時間50分）
東の原～女三瓶～室ノ内～奥の湯峠～太平山～東の原
～三瓶山が最後に噴火した時の火口で三瓶山中心部の凹地を巡るルート～

5.) 参加費 4,000 円（1泊2食・弁当・交流会費等）

6.) 募集人数 全体で 50 名程度

岡山県連からの参加者は15名を限度とし参加費は県連が一部補助する。

7.) 申込 9月15日までに各会の県連理事を通じて、下記の書式に沿ってお申し込み下さい。 ※定員になり次第締め切らせていただきます。

氏名	男女	所属団体	1日目の参加	宿泊の有無	2日目の参加	埋没林 見学希望	※2日目 希望コース

倉敷ハイキング倶楽部「第11期ハイキングスクール」を振り返って

倉敷ハイキング倶楽部 桑田和哲

7月24日3:00、前日までの雨模様から一転、満点の星空の下、雷鳥荘から雄山を目指して修了山行が始まった。室堂を取り巻く山々の稜線が夜空に浮かび上がっている。6カ所の雪渓を横切り、一の越に到着すると槍ヶ岳など北アルプスの名峰が目に焼き付いた。雄山からは当初計画の縦走ルートや重厚な山容を誇る劔岳を一望することができた。日本三名山である富士山と白山を立山から同時に見えて感動的であった。チングルマ、ハクサンイチゲ、ヨツバシオガマ、シナノキンバイなどの高山の花も堪能した。

(23日に立山縦走計画だったが、雨のため翌朝3時発の雄山ピストン登頂に変更、夜倉敷帰還)



一の越まで、6カ所の雪渓を横断



雄山山頂にて 後方は薬師岳

思い起こすと、新型コロナウイルスに大きく振り回された3年間であった。

2020年「第10期ハイキングスクール」(以下、「スクール」と称する)は開講直前に中止した。2021年「第10期スクール」では、バス山行を現地集合に変更するなど安全・安心なスクール運営を目指して開講、座学3回、実技山行1回まで行ったが、第4波(6月ピーク)により中断し、再開することができなかった。

そして、2022年「第11期スクール」は、第6波の影響で開講時期が少し遅れたが、受講者56名を迎えて開講した。開講後は、座学・実技山行ともに計画どおりに進んだ。

コロナ禍で行動制限を余儀なくされてきた反動かもしれないが、受講者の参加意欲が高く、バス山行では大型バスが受講者で満車となり、スタッフ用にもう1台バスをチャーターする場面もあった。実技山行は天候に恵まれて、県内の山や初夏の大山を堪能しながら、登山スキルを研鑽することができた。

座学6回のうち3回以上、かつ実技山行5回のうち3回以上の受講者には修了証書を授与している。意欲的な受講者が多く、56名のうち、修了証書授与者は48名、皆勤賞は20名であった。KHCへの入会者は既存会員を含めて47名となり、3年振りのスクールはその目的を十二分に達成できたものと喜んでいる。

表1 座学のテーマと参加人数		(受講者56名)		表2 山行の実施と参加人数		(受講者56名)	
日程	テーマ	講師	参加人数	日程	山名	区分	参加人数
3/12	服装と装備	能瀬雅国	46	3/12	遥照山	実技	46
3/31	登山生理学	山西あさみ	52	4/3	熊山	実技	41
4/14	歩き方とマナー	元木敏行	53	4/16	毛無山	実技	39
4/28	登山計画書	笠井 功	51	5/14	泉山	実技	45
5/6	地図の読み方	姫井利幸	53	5/29	大山	実技	51
6/2	気象と遭難対策	川口 勇	54	6/19	和気アルプス	訓練	44
6/9	修了式	植田恵子		7/22~24	立山	修了	30

2022年度第1回理事会報告

2022年7月10日作成

日時：2022年6月22日（水）19：00～21：00

場所：ゆうあいセンター 会議室

出席者：12名 欠席者：0名 全：12名

1、報告

- (1) 会計報告（久世会計部長）（各理事に送付済）
➢事務推進費 70,100 円を各会に配布済、全国連盟 2 期分支払済、50 周年記念事業支払済。
- (2) 県連救助隊総会の報告（加治）
➢6/18 18:30～ ライフパーク倉敷 11 人出席
次年度から3月に総会。機関紙8月号で報告。
➢11/27 一般縦走路搬出訓練 操山里山センター セルフレスキュー KHC 担当。
- (3) その他
➢新理事及び現理事自己紹介。

2、議題

- (1) 2022 年第 52 回岡山県連総会を振り返って（加治事務局長）
総会は5月22日（日） 国際交流会館
機関紙7月号に掲載。
- (2) 50 周年記念誌発行について（谷川機関紙委員長） ➢配布方針案説明。
- (3) 県連クリーンハイク実施状況（西岡自然保護委員長）
➢全国連盟報告用紙 各会自然保護担当者から西岡自然保護委員長へ。
6/26 みまさか 蒜山 6/26 THD 王子ヶ岳 6/18 MONTATA 岡山市北区砂川 岡労未定
- (4) 安全登山講習（加治）
 - 1、山の装備講習 7月9日（土）
生涯学習センター 講師：近藤邦彦氏
➢定員 50 名 KHC14 みまさか2 岡労3 SCMC5 最終加治理事長へ。
 - 2、登山に役立つ岩登り 11月19日（土）
和気の岩場 講師：近藤邦彦氏
 - 3、ロープワーク講習会（日） 11月20日（日）
和気の岩場 講師：近藤邦彦氏
➢クライミング経験者対象。
 - 4、山の理念 日程未定
➢1月開催で洞井孝雄氏（愛知県連）依頼予定。
 - 5、気象講座 2023年4月15、16日
➢中蒜山、下蒜山 ハイキングと交流も。
 - 6、その他 雪山講習は例年通り開催予定
- (5) 国民平和大行進（原田会長）
➢7/16（寒河）～7/26（福山） 岡山県内を行進。
- (6) 全国・中地協関係行事予定
 - 1、全国遭難対策担当者会議

7月2日（土）～3日（日） 宮城県
➢加治理事長、県連救助隊 藤原事務局長（PFC）参加。

- 2、全国自然保護講座
7月9日（土）～10日（日） 滋賀県
➢西岡自然保護委員長参加。
- 3、中地協代表者会議
9月4日（日） 10:00～15:00
広島県 三次市 三次きんさいセンター
➢岡山県連中地協事務局担当。
- 4、全国ハイキング交流集会
10月1日（土）～2日（日） 山口県
- 5、中地協ハイキング交流集会
10月22日（土）～23日（日） 島根県
国立三瓶青少年交流の家（島根県大田市）
- 6、全国登山研究集会
10月29日（土）～30日（日） 東京都府中市
➢5分科会 80名募集
- 7、全国自然保護担当者会議
11月12日（土）～13日（日）
- 8、全国登山学校担当者会議
11月19日（土）～20日（日） 京都府
- (7) 龍ノログリーンシャワーの森を守る会について
 - 1) 守る会への参加について、県連としては以後参加しない。ただし、会員が個別に参加することは自由。
 - 2) 田鍋氏は守る会の「幹事」を退任し、別途県連で新規に人選し守る会へ幹事として派遣する。
 - 3) 現状どおり、田鍋氏を派遣で今年は参加し、今後どうするかは県連内で協議する。
➢今年度は3) 案で。田鍋氏個人としては、会に残る。
- (8) 次号「労山おかやま」の編集案提案と記事原稿分担（谷川機関紙委員長） 編集案に沿って協議。
原稿締め切り 7月20日（常に印刷の1週間前）
印刷は 7月27日（水）
- (9) その他 ➢事故報告 KHC 2件 マダニ、ろっ骨骨折 SCMC 1件 右足骨折。

今後の理事会日程

2022年7月27日（水）19時00分より
ゆうあいセンター（きらめきプラザ内）
2022年8月24日（水）19時00分より
ゆうあいセンター（きらめきプラザ内）

県連・各会 '22年8月～年9月 行事・山行予定表

'22年8月

(太字は県連行事)

'22年9月

(太字は県連行事)

	曜	予 定		曜	予 定
1	月		1	木	
2	火		2	金	
3	水		3	土	
4	木		4	日	道後山(SCMC)、中地協代表者会議:三次、兜岩(みまさか)
5	金	鳳凰三山(~7)(SCMC)	5	月	
6	土	剣山(SCMC)	6	火	
7	日	山乗り溪谷(みまさか)、大山ユートピアコース(KHC)	7	水	
8	月		8	木	
9	火	鞍馬山~貴船(KHC)	9	金	
10	水		10	土	吾妻山(SCMC)
11	木	剣山(市民ハイ) (NHC)	11	日	道後山(みまさか)、三倉岳・瓦小屋山(NHC)、岡曾山(THD)、白馬山~朝鍋鷲ヶ仙(KHC)
12	金		12	月	
13	土		13	火	
14	日		14	水	
15	月		15	木	
16	火		16	金	
17	水		17	土	日名倉山(KHC)
18	木		18	日	
19	金	吾妻山(KHC)、ボランティア in 毛無山(SCMC)	19	月	西鎌尾根~槍ヶ岳(~22)(SCMC)
20	土	強羅漢山(THD)、山乗溪谷(SCMC)、二子山(NHC)	20	火	
21	日		21	水	
22	月		22	木	砂川公園・鬼ノ城(~23)(KHC)
23	火		23	金	木曾駒ヶ岳・宝剣岳(~25)(NHC)
24	水	県連理事会	24	土	熊野古道・玉置山と果無集落(~25)(SCMC)
25	木		25	日	星山~櫃ヶ線(みまさか)、北アルプス南部(~28)(KHC)
26	金	金峰山・瑞牆山(~28)(SCMC)	26	月	
27	土	井倉洞(KHC)	27	火	夢街道ルネッサンス~出雲街道勝山(SCMC)
28	日	直島(SCMC)	28	水	県連理事会
29	火		29	木	
30	水		30	金	論山~熊山遺跡(KHC)
31	木				

＜事故報告＞

県連遭難対策委員会

6月に県連遭難対策委員会に2件の事故一報が届きました。

- ① 日時・場所 5月31日 高梁自然公園 標高400m
 事故者 男性 70歳 倉敷ハイキング倶楽部 虫(ダニ)刺され
 概要 例会の高梁自然公園遊歩道散策に参加。帰宅してからおなかチクチクするので見るとダニに咬まれていた。翌日病院に行きダニを除去してもらった。6月6日再受診し感染症なしを確認した
- ② 日時・場所 6月10日 13時0分 九重連峰 久住山避難小屋付近
 事故者 女性 61歳 倉敷ハイキング倶楽部 左手薬指及びろっ骨骨折
 概要 九重山登頂後、久住別れ避難小屋を過ぎたあたりで足を滑らせて転倒、かばって衝いた左手と胸部を打撲した。応急処置を済ませ下山、帰宅したが痛みが引かないので16日に病院に行き左手薬指とろっ骨3本が折れていることが判明した。全治3週間の見込み。